

開倫塾の塾生・保護者の皆様へ

開倫塾

塾長 林 明夫

お読みになりやすいように、QandAの形で書かせて頂きます。予め御了承下さい。

**Q：県立高校入試直前の受験生の過ごし方をお話下さい。**

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 県立高校入試まであと数日となりましたので、受験生としての心構えをお話いたします。皆様は本当によく勉強なさいました。今までの人生で一番勉強した人も多いのではないかと思います。まずは、よく頑張った自分自身を褒(ほ)めてあげて下さい。
- (2) この受験勉強を支えて下さったのは、保護者の皆様と家族の皆様です。保護者の皆様と家族の皆様の皆様のご支援がなければ、受験勉強にここまで全精力・エネルギーを集中できなかつたと考えられます。そこで、保護者の皆様と家族の皆様に感謝の心を持つこと、できれば、一度はそれを言葉に出して表すことが、人間として大切な生き方ではないかと思います。
- (3) あとは、入試問題が配付される直前まで、ひたすら勉強するのみです。入試の直前までにやるべき教材を決めること。これをやると決めた教材については、迷うことなく何回も何回も「音読練習」「書き取り練習」「問題(計算)練習」を繰り返すことを、心からお勧めします。ひたすら声に出して「読んで、読んで、読みまくること」、「書いて、書いて、書きまくること」、「問題を解いて、解いて、解きまくること」が大切です。
- (4) 外から帰ったら、薬用石けんを用いて2～3回入念に手洗いをする、うがい薬を用いて丁寧(ていねい)にうがいをする、インフルエンザウイルスの侵入を少しでも防いで下さい。

便秘がちな人は、口の中に入れる食物に気をつけること。肉食を減らし、繊維質の多い野菜を多く摂ること。これに加えて「水カップ1杯とリンゴ半分、にんじん1本」をミキサーに入れて野菜ジュースを作り、蜂蜜を入れて毎朝飲んで下さい。3～4日で便通がよくなる人がたくさんいます。

**Q：試験当日はどうしたらよいのですか。**

- A：(1) 受験会場に行くと、自分以外は皆優秀に見えます。そこで、「ここに集まっている受験生は自分とほぼ同程度、この中で自分は一番優秀である、頭の形を見れば皆同じかぼちゃのように見えるではないか」、このように考えることが心を楽にします。
- (2) よくわからない問題があっても、決してあわてないこと。心を落ち着けて、わかる問題だけでも確実に解き続けましょう。

Q：県立高校入試が終了したら、どうしたらよいのですか。

A：(1)何回も申し上げて恐縮ですが、授業の進度が非常に速い高校1年生の成績、もっと言えば高校3年間の成績は、入学式までに英語と数学、特に数学をどれだけ予習できたかで決まります。多くの高校では、最初の50～60ページ分は超スピードで進むからです。高校の入学式までに、せめて数学だけでも教科書の50～60ページ分は開倫塾に通い詰めて終了させておくこと。

(2)高校に入学すると、学校外では全く勉強せずに遊びほうける人が半数も存在します。これでは、何のために高校入試の勉強をしたのかが全くわからなくなります。「日本では、学校以外では全く勉強しない高校生が50%、30分～90分しか勉強しない高校生が30%で、2時間以上勉強する高校生は20%しか存在しない」ことは、厳然たる事実です。「私は、このような勉強をしない高校生には決してならないぞ」と決意をして、入学式を迎えて下さいね。

(3)開倫塾の先生方の中に、開倫塾で一所懸命に受験勉強をする皆様を見て、「観音様のように神々(こうごう)しく、光り輝いている」とおっしゃった方がおられました。私もその通りだと思います。

高校生になっても、自分自身をよく見つめながら、「よく生きる」ために勉強し続けて頂きたいと希望いたします。

(4)勉強する場合には、Learning To Learn(学び方を学ぶ)スキル、つまり自己学習能力を身に付けることが大事です。

Q：最後に一言どうぞ。

A：私の尊敬する衆議院議員の猪口邦子さんの「英語の勉強方法」を、ご参考までに紹介させていただきます。どうか、猪口さんの勉強方法を、ゆっくり、また、時間をおいて何十回もお読みになり、世界で通用する英語力を身に付けて下さい。

### 「丸暗記は最良の英語上達法」

十代前半をすごしたサンパウロのアメリカンスクールはアジア人禁制だった。そこに通ったのは、父が学校当局に掛け合ってくれたおかげだ。当然、肩に力が入る。「武士の一分」ならぬ「子供の一分」を保たなければならない。英語を死に物狂いで勉強した。

音読、繰り返し、暗記。勉強法はこれに尽きる。単語を覚えるためのノートやカードを何冊もつくり、毎日せつせと読み、書いた。いちど覚えた単語も毎日最初から繰り返す。意味を悟り、綴りはアルファベットをそのまま覚える。アップルは「エイ・ピー・ピー・エル・イー」。この世をあきらめたと思って自ら修練を課した。

使える単語をひとつでも多く増やす。何千も知っていれば、まず本が読める。単語がわかれば文法は後からでも簡単に学べる。次は定型文を丸暗記する。英作文ができるようになる。応用を利かすには頭に収まっている単語を入れ替え、あてはめればいい。

軍縮大使になったときもこのやり方だった。まず条約をほぼ丸暗記する。交渉相手がたとえ

ば「一五条二項は…」などと言いながらファイルを開こうとしたら、すかさず条文を誦<sup>そら</sup>んじる。それだけで心理戦で優位に立てた。

いまは議員として海外からお客を迎えることが増えた。それは楽しみだが、英語力が鈍ったと感<sup>かん</sup>じることもある。そこで朝の十数分間、自宅へ届くヘラルドトリビューン紙の一面記事の音読をしている。声に出すとわかるけど、日本語と英語では喋<sup>しゃべ</sup>るときに使う顔の筋肉が違う。表情や身ぶり手ぶりも異なる。音読は筋力トレーニングでもある。

アメリカンスクールでは英語のシャワーを浴びるような授業の毎日だった。それに立ち向かおうと、自ら編み出した勉強法。いまからでも英語が上手になりたいひとにお勧めだ。論語にも、学びて時にこれを習<sup>ま</sup>う、亦<sup>よろこ</sup>た説<sup>ま</sup>ばしからずや、とある。二カ月間、ほかのことを全部あきらめて続けてみてください。

—衆議院議員 猪口邦子著 日本経済新聞 2007年10月12日—